

【休業明け集会】

長い夏休みも終わり、生徒たちが元気に学校への登校してきました。
3日に行われた休業明け集会で、校長先生が冒頭に「休みが終わり、気が重い人がいるかもしれないが、仲間と楽しく学校生活を送って欲しい。」と話されました。また、「9月から12月までの期間は、平成30年度（2018年度）の充実期です。1年生は名実ともに高校生となり、高校生としての活躍が期待され、2年生は学校を中心としての活躍が期待される時期です。また、3年生は高校生活の総決算の時なので実社会を見つめる目を磨いて欲しい。」との話もありました。



【創立記念講話（キャリア講演会）】

11日は、本校の創立記念日ですが、その日を迎えるにあたり創立記念講話（キャリア講演会）を開催しました。

今年は、本校の卒業生（平成26年度卒業）で、現在、茨城県警察ひたちなか警察署に勤務する阿久津翼氏に講師をお願いしました。また、茨城県警察本部刑事部薬物銃器対策課課長の村田ゆかり氏を特別講師にお迎えしました。



まず、特別講師の村田氏に「人生にとって大切なこと」という演題で講話をいただきました。村田氏は、高校を卒業するときに『人の気持ちに寄り添い、社会に役立つ仕事がしたい』という一心で警察官になることを決めたことを話され、自分の進路について考えなければならない時期に差しかかっている生徒たちに、自分の考えをしっかりとって進路選択をした方が良いというメッセージをくださりました。また、「心と心が通い合えば気持ちが分かり合えるもので、どのような仕事に就くにせよ大切なこと」だと話されました。

講話の最後に、「幸せな人生と意味のある人生」という言葉を紹介してくださり、「人生は様々な選択の連続であり、大切なことは、人生は『三風五雨（「10の内3日が風で5日が雨。2日晴れれば良しとする」という考え方）』だとポジティブに考えることです。また、今があるのは過去における選択の積み重ねであり、人生の行き先を決める（選択する）のは自分。私にとっての人生は『幸せな人生』ではなく『意味のある人生』だと思っているし、意味のある人生は今の仕事を与えてくれたものだと思います。そして、これまでの選択の積み重ねの成否は、自分が死ぬときに分かるのではないかと思います。」と講話を締めくくられました。



次に、卒業生の阿久津氏に講話をいただきました。阿久津氏は、どのような経緯で小瀬高校へ入学したのかという話を皮切りに、入学後は自分の将来を考えて勉強していたこと、苦手な教科もあって勉強では苦労したことなど、在学中の様子を語ってくれました。また、当時の先生方からあいさつの大切さやチャレンジすることの素晴らしさを教えてもらったが、警察官になってコミュニケーションツールとしてのあいさつは本当に大切であることを実感しているとの話もしてくれました。

また、「3年目でようやく仕事のことが分かってくる」との話し、「簡単にあきらめない」ことや「失敗したことは大きな財産となる」など、働きながら学んだことを教えてくれました。併せて、「警察官として市民・県民のために寄り添っていたい」という仕事に対する思いも話してくれました。

最後には、在校生からの質問にも丁寧に答えてくれました。

お二人の講話の後に、生徒会長の鈴木蓮さんが、「仕事の大変さや辛さの話は聞きましたが、単に苦しいだけではなく本当に一生懸命に楽しみながら仕事をされていることが伝わってきました。今日のお二人のお話を伺って、私たちも、今の内に色々なことをしっかりと学び、身に付けておかなければならないと思いました。」と立派に謝辞を述べました。

